

平成25年度

第2回社会教育委員会議

＜日 時＞ 平成25年10月2日（水）午後7時から
＜場 所＞ さくらドーム 2階 第2会議室

～ 次 第 ～

1 開会あいさつ

社会教育委員会議 議長 横山 尚
教育委員会 教育長 勝二 信隆

2 議 件

（1）平成25年度社会教育関係事業について

- ①宝達山クリーン登山
- ②ジャパンテント

（2）その他

- ①第44回東海北陸社会教育研究大会（三重大会）
- ②石川県社会教育委員連絡協議会第2回役員会報告

3 意見交換

4 閉 会

宝達志水町町民憲章

私たちの宝達志水町は、恵まれた自然の中で先人のたゆまぬ努力によって築かれた町です。

この歴史と伝統を重んじ、活力に満ちたまちづくりをめざし、ここに町民憲章を定めます。

- ― 豊かな自然を愛し、安全で住みよいまちをつくります。
- ― みんなで支え合う、魅力あるまちをつくります。
- ― 健康を増進し、生きがいを持てるまちをつくります。
- ― 教養を高め、うるおいのあるまちをつくります。
- ― 産業を振興し、活力あるまちをつくります。

○宝達志水町社会教育委員設置条例

平成17年3月1日
条例第80号

(設置)

第1条 社会教育法(昭和24年法律第207号。以下「法」という。)第15条の規定により社会教育委員(以下「委員」という。)を置く。

(定数)

第2条 法第18条の規定による委員の定数は、8人以内とする。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員補充によって委嘱した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(回数)

第4条 法第17条の規定による定時の会議は、年3回とする。

(議長)

第5条 委員は、互選によって議長を定める。

(副議長)

第6条 副議長1人を置くものとする。

2 副議長は、議長が指名する。

3 副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第7条 会議は、議長が招集する。ただし、委員の定数の3分の1以上のものから臨時に会議招集の請求があるときは、議長は、これを招集しなければならない。

第8条 会議の議決事項は、教育長を経て宝達志水町教育委員会(以下「教育委員会」という。)に報告しなければならない。

(委任)

第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成17年3月1日から施行する。

○社会教育法（抜粋）

（昭和二十四年六月十日法律第二百七号）

第四章 社会教育委員

（社会教育委員の構成）

第十五条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が委嘱する。

（削除）

第十六条 削除

（社会教育委員の職務）

第十七条 社会教育委員は、社会教育に関し教育長を経て教育委員会に助言するため、左の職務を行う。

- 一 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- 二 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
- 三 前二号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

（社会教育委員の定数等）

第十八条 社会教育委員の定数、任期その他必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。

第十九条 削除

【社会教育委員の役割】

社会教育委員は、「社会教育法」に規定され、町の社会教育や生涯学習の推進のための方策や方針について意見を述べるだけでなく、必要に応じて、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行うことによって、社会教育に関し、教育委員会に対して助言をする役割を担っています。

社会教育委員は、学校教育や社会教育の関係者、PTA 関係者、学識経験者、家庭教育の向上に資する活動を行う方々に委嘱され、地域において経験豊かで、社会教育に優れた知見を有する方々の知識を社会教育行政に反映させていくことが期待されています。

「宝達山クリーン登山」実施要項

1 趣 旨

<小学生>

- ・町の象徴である宝達山の豊かな自然に触れ、その魅力を知る
- ・ゴミ拾いを通して、宝達山の自然を大切にする気持ちを育む

<中学生>

- ・町の象徴である宝達山の豊かな自然に触れ、その魅力を知る
- ・自然保護活動や環境保全活動を通して、宝達山をはじめとしたふるさとに対する愛情や誇りを高める

<高校生>

- ・町の象徴である宝達山の豊かな自然に触れ、その魅力を知る
- ・自然保護活動や環境保全活動を通して、宝達山をはじめとしたふるさとに対する愛情や誇りを高める
- ・小・中学生との活動を通して、自主性とリーダーシップを養う

2 実施主体

宝達志水町教育委員会、社会教育委員、宝達高校、町内小・中学校

3 後 援

参天製薬(株)能登工場

4 協 力

羽咋警察署、石川県猟友会羽咋支部

5 期 日

平成25年10月10日（木）

（※10日に事業ができない場合は中止）

6 参加者

<小学校5年生>

押水第一小学校	16人
宝達小学校	12人
相見小学校	35人
樋川小学校	22人
志雄小学校	31人

<中学校1年生>

押水中学校	71人
志雄中学校	77人

<宝達高校>

1年生	75人
3年生	70人

計 409人

7 活動内容

（1）ゴミ拾い（東間、本間谷、上野コース）

…各小学校5年生、各中学校1年生、宝達高校1、3年生

（2）昼食準備（山頂公園）…宝達高校3年生

8 コース別日程等 別紙参照（別紙1）

（1）トイレについて

別紙「コース図」参照（別紙2）

- ・ ゴミ拾い（東間コース） …東間口
（本間谷コース）…宝達葛会館
（上野コース） …広域農道交差（簡易トイレ）
（各コース共通）…山の龍宮城、山頂公園（簡易トイレ）

（2）顔合わせ会について

①内容

各学校集合後に実施（進行は社会教育委員）

ア 紹介（社会教育委員、警察、猟友会、参天製薬）

イ 自己紹介（各学校代表の児童・生徒…学校名や人数等）

ウ 諸注意（社会教育委員）

- ・ 高校生を中心にグループごとに歩く（ゴミ拾い）
- ・ ゴミは可燃・不燃に分け、粗大ゴミ等は拾わない（ゴミ拾い）
- ・ 先導車の後ろを歩く
- ・ 通行する車に十分注意する
- ・ 気分が悪くなった場合の対応（救護担当への連絡など）

エ グループ作り

（3）移動について

①体形

猟友会 – (警察) – 社教 – 児童・生徒 – 参天製薬 – 後方車 (町・学校)

- ・ 社会教育委員（社教）は連絡用の無線を携帯し、ポイントの場所で山頂公園責任者へ連絡する（例：登山開始、休憩、山頂公園到着予定時間等）
- ・ 不測の事態にはクラクションをならす

②休憩

1 回程度休憩する

（4）ゴミ拾いについて

- ・ ゴミ袋はグループごとに2枚（可燃・不燃各1枚）とし、後日宝達高校へ配付する
- ・ ゴミは可燃と不燃に分け、山頂公園で集める（集積所の表示あり）
- ・ 持ち運びできないゴミ（粗大ゴミ等）は拾わない
- ・ 通行する車に十分注意しながら、道路の右手と左手のゴミを拾う
- ・ 基本的には右側通行とする
- ・ 縦長にならないよう、前方を歩くグループは間が開いてきたら、少し止まる等考慮する
- ・ 体調が優れない児童生徒を見つけたら、すぐに先生等に連絡する

(5) 昼食について

山頂公園に到着後、グループごとに食事する
昼食は持参した弁当と宝達高校PTA提供の豚汁とする

(6) 学習会について

①内容

ア あいさつ（教育長）

イ 学習会

宝達山に関する話（全参加者対象）

体形は別紙「山頂公園配置図」参照（別紙3）

(7) その他（下山について）

・上野方面（学校ごとに歩く）

宝達高3 → 宝達高1 → 志雄中 → 志雄小 → 樋川小 → 宝達小
の順に下山する

・東間方面（学校ごとに歩く）

宝達高3 → 押水中 → 相見小 → 第一小の順に下山する

・到着後、学校ごとに解散、移動する

9 用意する物

児童・生徒	リュックサック、弁当、箸、水筒、タオル、敷き物、軍手、常備薬等（必要に応じて）
小・中学校	手ばさみ（必要に応じて）、救急用具、給食用お椀（児童・生徒に持たせても良い）、デジタルカメラ
宝達高校	テント2、長机7、いす20、PTA 鍋、玉杓子10、豚汁用お椀（生徒・関係者）、スポンジ、タオル、食器洗剤（釜を洗うため）
生涯学習課	ゴミ袋、鈴、2tトラック（テント運搬用）、釜・寸胴各2（炊き出し用）、ハンドマイク3、学校名掲示用紙（8校）、セロテープ、デジタルカメラ、プロパンガス2、チャッカマン、カラーコーン、軽トラック3（豚汁運搬用2台）

10 事前指導

(1) 高校生はリーダー性を高める学習・指導をする

(2) 学級や学年で宝達山について学習する（別紙4）

(3) クマや蜂に関する学習をするとともに、児童・生徒に鈴を装着させる
（高校生を除く）

(4) 高校及び小・中学校の担当者（コース責任者等）は、当日までにコース等の
下見を行う

11 事後指導

- (1) 児童・生徒の感想文は、文章を点検の上、各学級2名分を生涯学習課へ提出する
 - ①感想文は400字詰め原稿用紙1～2枚程度とする
 - ②題名（例：クリーン登山を終えて）、学校名、学年、氏名を記入する
- (2) 各学校で撮影したデジタルカメラのデータを生涯学習課へ提出する
（バスの写真（バス全体の状況が分かるもの）を含む）
- (3) 各学校で活動の様子を写真や感想文で紹介するなど、児童・生徒に宝達山の自然や自然保護活動の必要性をPRする
- (4) 事業終了後、各学校の担当者にアンケートの記入を依頼する

12 その他

- (1) 順延及び中止の場合は、前日の正午までに各学校へ連絡する
- (2) 不測の事態が生じた場合は、事業を中止することがある

13 各学校連絡先

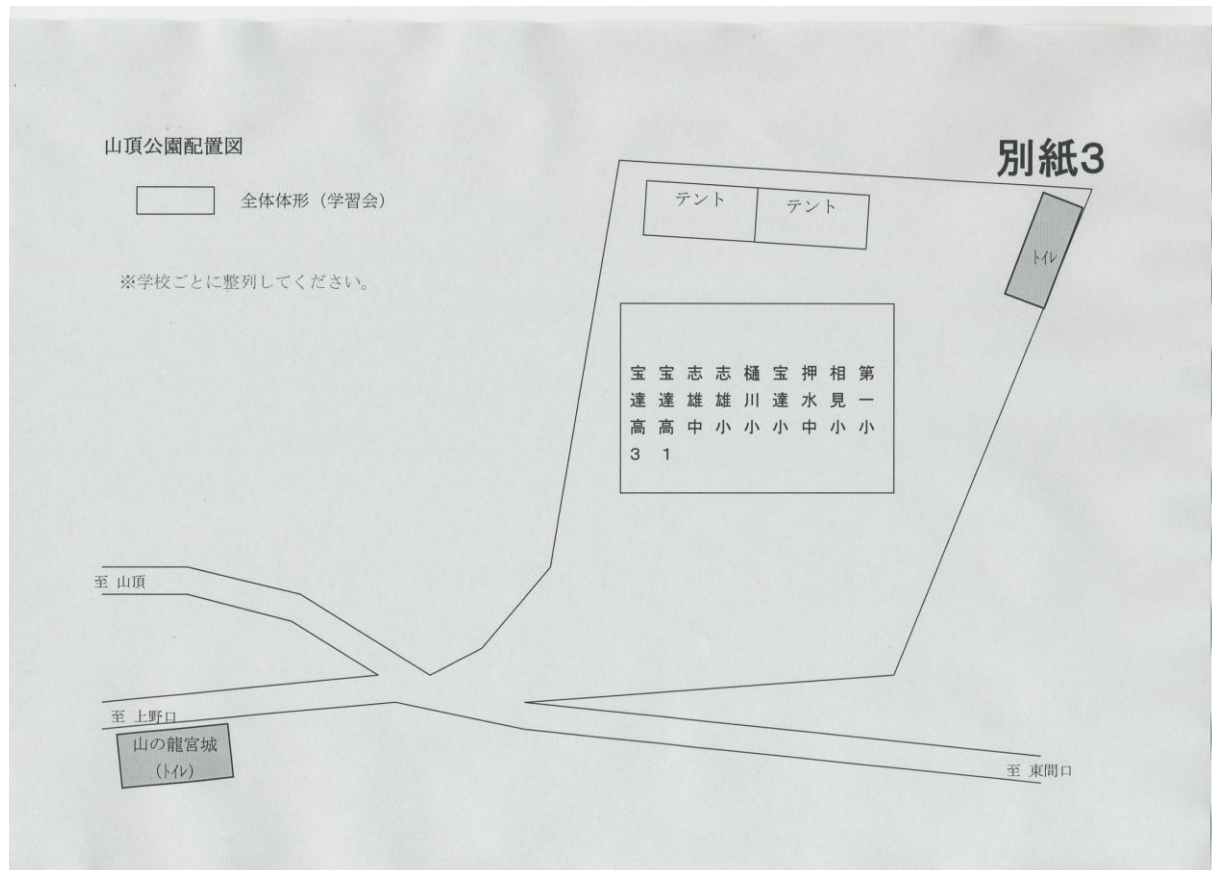
学校名	電話番号	FAX 番号
押水第一小	28-2129	28-2144
宝達小	28-2101	28-4313
相見小	28-2017	28-2336
樋川小	29-2044	29-3990
志雄小	29-2052	29-2069
押水中	28-3121	28-3120
志雄中	29-3000	29-2073
宝達高	28-3145	28-4056

コース別日程等

別紙1

	ゴミ拾い												昼食準備
コース(距離)	東間 (5.5Km)				本間谷 (6.5Km)			上野 (6.5Km)				山頂公園	
学校・学年	第一小5	相見小5	押水中1	宝達高3	宝達小5	宝達高1	宝達高3	志雄小5	樋川小	志雄中1	宝達高3	宝達高3	
人数	16人	35人	71人	27人	12人	75人	6人	31人	22人	77人	27人	10人	
グループ数	3	6	9	9	3	13	1	5	4	9	9	—	
社教	中井・鍋島・早川				横山・村上			美作・向瀬				—	
帯同	警察・猟友会				警察・猟友会			警察・猟友会				—	
教委	山田 松夫 (総エスティ)				濱谷 敏充 (生学エスティ)			宮本 孝則 (環ウイングロード)				(※1)	
責任者	牧野 利明				松田 健吾			荒井 一彦	山本 正美			吉野 勉	
(記録)	北山由紀子				松田 健吾			荒井 一彦	遠藤 修			—	
救護 (後方車)	山口 雅恵 (第一小)・木谷 久栄 (押水中)				小林 恭子			杉本 さゆみ (樋川小)・岡本 尊子 (志雄中)				—	
8:00													
8:10													
8:20						学校発	学校発						
8:30												学校発	
8:40					(現地集合)	着	着	学校発	学校発	学校発			
8:50					本間谷口(葛会館)						着		
9:00		学校発			顔合わせ会			上野口(広域農道交差)					
9:10			学校発	学校発	登山開始			顔合わせ会					
9:20	(現地集合)							登山開始					
9:30	東間口(手速比咩神社)												
9:40	顔合わせ会												
9:50	登山開始												
10:00												学校発	
10:10													
10:20													
10:30													
10:40													
10:50													
11:00													
11:10													
11:20													
11:30					山頂公園着								
11:40													
11:50													
12:00					昼食								
12:10													
12:20													
12:30													
12:40													
12:50					学習会								
13:00					下山開始							山頂公園発	
13:10													
13:20													
13:30													
13:40													
13:50													
14:00													
14:10													
14:20		東間口着											
14:30	(現地解散)				上野口着								
14:40		学校着	学校着	学校着	(現地解散)								
14:50					学校着	学校着	学校着	学校着	学校着				
15:00					民間大型③着							バス上野口着	
15:10													
15:20					学校着						学校着		
15:30													
移動 (行き)													
(帰り)	徒歩	民間大型③-1	民間大型①、③-1	宝達高マイカ	徒歩	民間大型④ 子どもの家	生学エスティマ	スクールバス①	中核農家マイカ	民間大型② ｽｸｰﾙﾊﾞｽ②	宝達高マイカ	宝達高マイカ	

(※1) 荒井 雅子(環境軽トラック)、山本 健成(地域整備ダンプ)



第26回 J A P A N T E N T

平成26年度の東海北陸社会教育研究大会（開催地：七尾市）において、昨年度実施の奨励研究継続の取り組みについて事例発表を行います。

6月20日（木） ホストファミリー募集チラシ配布

（宝達駅、メルシー、シメノドラッグ、業務スーパー、Aコープ）



<募集チラシ>



<宝達駅>



<シメノドラッグ>

8月22日（木） 対面式

（オリエンテーション、対面式）



<オリエンテーション>



<対面式>

8月23日（金） 町プログラム

（岡部家、ミニレクリエーション、おはぎづくり、ぶどう狩り）



＜岡部家＞



＜ミニレクリエーション＞



＜おはぎづくり＞



＜ぶどう狩り＞

8月25日（日） お別れ式



ホストファミリーアンケート結果

1 ホストファミリーを引き受けた経緯はなんですか？（複数回答あり）

- ◆募集チラシを見て・・・0人
- ◆ポスターを見て・・・0人
- ◆事務局（区市町）からの依頼・・・3人
- ◆知人の紹介、依頼・・・2人
- ◆新聞広告、テレビ、ラジオ・・・1人
- ◆JAPAN TENT ホームページ・・・1人
- ◆その他・・・1（前から興味があった）

2 ジャパンテントで、今までにホストファミリーを引受けたことがありますか？

- ◆今回が初めて・・・6人
- ◆ある・・・2人（1回）

3 ホストファミリーをやってみたいと思った理由は何ですか？

- ◆子どもたちの国際交流のため。
- ◆子どもにとって良い経験になると思ったから。
- ◆子どもに他の国の子と仲良くなしてほしいと思ったから。
- ◆過去に二度オーストラリア人の受け入れ経験があったので、久しぶりに受け入れてみようと思った。
- ◆若い外国人の学生に日本の能登の魅力をもっと知ってもらえたらよいと思って申し込んだ。
- ◆子どもたちに外国人と接していろいろなことを知ったり聞いたり感じたりしてほしいと思ったから。

4 見学された施設や観光地をあげてください。（複数回答あり）

- ◆のとじま水族館・・・4人
- ◆能登島ガラス美術館・・・2人
- ◆七尾美術館・・・1人
- ◆コスモアイル・・・2人
- ◆千里浜なぎさドライブウェイ・・・2人
- ◆和倉温泉足湯・・・2人
- ◆フローリィー・・・1人
- ◆富来八朔祭り・・・2人
- ◆羽咋神社・・・1人
- ◆散田金谷古墳・・・1人
- ◆金沢東山金箔さくだ・・・1人
- ◆岡部家・・・1人
- ◆ぶどう園・・・1人
- ◆気多大社・・・1人
- ◆大社焼・・・1人
- ◆弓道場・・・1人

5 受入留学生に関するご意見や、ホストファミリーの感想をお書きください。

- ◆子どもたちが普段できないような体験ができ、楽しんでいたのがよかった。
- ◆留学生がノートパソコンやゲームを持参し、空いている時間にビデオやゲームをしているのを見て今時の人だと感じた。
- ◆小さい子どもがいたり、同性の人や同年齢の人がいた方がよかった。
- ◆自分のホストファミリー以外の人たちとコミュニケーションが取れないことや、会話中にいきなり電話をし出したり、スマホばかりさわっていて部屋に入る

となかなか出てこないなど、もう少し会話に積極的になってほしかった。

◆日本語があまり話せない分、自分たちも慣れない英単語を使ってよい勉強になった。

◆日本語が上手だったので手がかからなかった。

◆日本語の能力が高いことに非常に驚いた。日本の文化や習慣にも詳しく、こちらが学ぶこともたくさんあり好奇心旺盛でとても勉強熱心だった。本当に良い経験ができた。

◆肉、魚が食べられなくて何を作ればよいのかわからなかった。

◆初めてのホストファミリーだったので不安の方が多かった。フリーの日もどう過ごせばよいのか心配だったが、3日間があっという間で本当に楽しく過ごすことができてよかった。

◆外国のことをいろいろ学べてよかった。

6 今後もホストファミリーをしたいと思いますか？

◆したい・・・8人

◆したくない・・・0人

〔上記の理由〕

◆子どもがまだ小さいので、もう少し大きくなったらまたやりたい。

◆いろいろな国の方との交流ができ、見聞を高めることができるから。

◆自分にとっても子どもたちにとってもすごく良い思い出になったから。

◆機会があればしてみたい。

◆他の文化の人々と仲良くなることによってお互い勉強になるから。

◆留学生と過ごしたことによって自分の国や自分自身についても考えるきっかけができたような気がする。本当に見習う点がたくさんあって素晴らしい体験ができたと思った。

◆良い経験になった。子どもたちも喜んでいたのでまたやりたい。

◆子どもたちにとって良い経験になると思うから。

<第44回東海北陸社会教育研究大会（三重大会）>

1 期 日 10月24日（木）～25日（金）

2 会 場 （全大会）三重県営サンアリーナ
（分科会）伊勢志摩ロイヤルホテル
志摩市阿児アリーナ
志摩市立図書館

- 3 参 加 者 社会教育委員 2 名（横山委員、中井委員）
事務局 2 名（荒井、山本）

- 4 日 程 第 1 日目
11 : 20 受付
12 : 20 開会式、表彰式
13 : 15 社会教育実践交流広場
 (三重県全市町及び社会教育関係団体等が参画した取組)
15 : 00 シンポジウム
 (学校・家庭・地域を大切にしたい人が輝き、協創する社会教育の
推進)

17 : 00 閉会行事

- 第 2 日目
9 : 00 受付
9 : 30 分科会
12 : 00 閉会

5 分 科 会

分科会	テーマ	参加者	会場
第 2 分科会	家庭を大切にする	荒 井	伊勢志摩ロイヤルホテル
第 3 分科会	地域を大切にする	山 本	志摩市阿児アリーナ
第 4 分科会	青少年が輝く	中 井	伊勢志摩ロイヤルホテル
第 5 分科会	大人が輝く	横 山	伊勢志摩ロイヤルホテル